

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22401034

研究課題名（和文） 中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査

研究課題名（英文） The Comprehensive Research of the Xian Zhou (先周) and West Zhou (西周) Age Remains at the Weihe (渭河) Basin in China

研究代表者

飯島 武次 (IIJIMA TAKETSUGU)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：90106641

研究成果の概要（和文）：渭河流域における先周時代つまり、二里岡上層文化・殷墟文化併存期の土器型式には、鄭家坡型式・劉家型式・殷形の三者が顕著に認められることを確認した。渭河中流域における周形土器に対する殷形土器の影響は著しいものの、先周文化と西周文化の担い手は、鄭家坡型式と劉家型式の土器を持つ集団（姬姓集団と姜姓集団）で、特にその中心には鄭家坡型式の集団があったと考えられた。また、先周時代の古公亶父の周城は、周公廟遺跡付近であると結論づけた。

研究成果の概要（英文）：The Western Zhou was a state that arose in the Wei River basin at the end of the Shang dynasty. Archaeologically, a Western Zhou culture begins to be visible around the late half of the late Yin Shang period, what would be equivalent to the time period of the predynastic Zhou lord Danfu. In a study of that age, we confirmed that three earthenware vessel models of the Zhengjiapo Type, the Liujia Type and the YinXu Type were recognized conspicuously. The group of the Zhengjiapo Type particularly occupied in the center in the three groups which had the earthenware vessel of the Zhengjiapo Type, the Liujia Type and the YinXu Type. We thought that the group formed a Western Zhou dynasty. In addition, we concluded it that there was the old city of Zhou lord Danfu in the vicinity of remains of Zhougong Shrine.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2011年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2012年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
年度			
年度			
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：人文学 B

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：考古学 西周王朝 先周文化 渭河 周原 周公廟

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 陝西省中央部の渭河北岸の宝鶏市から武功県にかけての岐山の南山麓一帯は、広い意味での周原に当たり、史書に見られる周建国の舞台になっている。そこには先周時代から西周時代にかけての規模の大きな遺跡が

散在し、古公亶父の周原・周城、文王の豊京、武王の鎬京などの邑や都市名と、考古学的遺跡の関係が研究の焦点となっている。宝鶏市から武功県にかけての渭河流域に西周王朝建国期の史書に見える遺跡が分布している可能性がきわめて高い。

(2) 『詩經』大雅・緜篇、『竹書紀年』、『史記』周本紀には、古公亶父が邠から岐周に遷り、岐邑を造営する歴史が記載され、この古公亶父の周城は、渭河北岸の黄土台地に位置すると考えられ、この時代に入ると考古学的な遺跡と史書の記載が結びつき、歴史上の事実として考古学的な遺跡・遺物の調査が可能となってくる。そして鳳凰山の南麓に広がる周公廟遺跡は、周公旦の采邑である可能性が高くなっていった。また周公廟の北東の尾根に分布する陵坡の大墓群は、周公旦一族の墓地である可能性の強いことが解った。その研究成果を、2008年にその報告として『中国渭河流域における西周時代遺跡の調査研究』および『中国渭河流域の西周遺跡』の表題で刊行した。

(3) しかし、当初の研究目的であった西周王陵の位置は依然として不明であった。周原・周城の位置に関しても決め手を欠いていたままであった。多くの先周・西周遺跡を踏査したが、踏査した遺跡は、想定される遺跡数の十分の一ほどであった。したがって継続しての研究が求められていた。

## 2. 研究の目的

(1) 2010・2011・2012年度の科学研究費補助金による研究目的は、中国渭河流域に位置する先周・西周遺跡の発掘および踏査等の考古学的調査を行い、先周・西周遺跡群における近年の発掘成果を基礎に、古公亶父の周城の位置を最終的に確定し、その他の西周王朝の都城の位置も考古学的に確認し、不確実な西周王朝建国期の歴史を明らかにすることであった。

(2) 陝西省内の先周・西周遺跡群に研究の主眼を置いていたが、渭河上流域である甘肅省東部にも先周・西周土器を出土する遺跡が存在することを知った。そのため、必要に応じて新たに甘肅省内の先周・西周遺跡群にも取り組むこととした。

## 3. 研究の方法

(1) 上記研究目的達成のため、陝西・甘肅省内渭河流域の先周・西周遺跡群の踏査と分布調査および遺跡の測地調査を行い、また中国側が行うこの地域の先周遺跡・西周遺跡に対する発掘調査に参加した。

(2) さらに中国側が過去に発掘した考古資料を収集し、整理研究を行い、実測・写真撮影を行った。特に土器の型式学的な分類と窖藏青銅器研究に力を入れた。

(3) また渭河流域に分布する先周遺跡・西周遺跡に対してのGPS調査・衛星画像を用いた調査を行い遺跡の立地条件を解明した。

(4) 古典文献史料からの研究として、渭河流域における後漢から南北朝時代の村場研究を行い、先周・西周時代集落の立地条件研

究の比較資料とした。

## 4. 研究成果

(1) 2010・2011・2012年度の先周・西周遺跡踏査・発掘の旅等

この3年間の調査活動の概略は、以下の通りである。

2009年度以前の調査の中心地域は、渭河の中流域であった。そのため渭河上流域の西周遺跡研究がきわめて不十分な状況であった。そこで、2010年度は渭河の中流域の調査と共に渭河上流域の調査にも重点を置くことにした。北京大学考古文博学院が、渭河上流域の甘肅省天水市清水県における西周遺跡の発掘を計画したため、研究代表者飯島武次と連携研究者鈴木敦、研究協力者長尾宗史は、2010年9月の発掘調査を意図として2010年8月16日から8月23日の間、甘肅省天水市清水県における発掘の準備と設営、および陝西省宝鶏市・鳳翔県・岐山県付近の先周・西周遺跡の踏査に入った。陝西省宝鶏市に位置する西周時代の勸誥遺跡および周公廟遺跡祝家巷北地点を入念に調査した。勸誥遺跡は、横水河東岸に位置し、先周時代・西周時代の遺構・包含層を有する規模の大きな遺跡である。2010年9月7日から同年9月19日の間、研究代表者飯島武次、連携研究者鈴木敦、研究協力者古庄浩明は、北京大学考古文博学院・甘肅省文物考古研究所が行った甘肅省天水市清水県にある李崖遺跡の発掘に参加した。発掘現場は、樊河の右岸、汜濫源に近いIIA2区内の東側墓地区と西側遺物包含層区の2地点であった。西側遺物包含層区では、表土上面から2.5mほどでようやく遺構確認面に達した。樊河の沖積がきわめて深いことが解った。西側遺物包含層区では、多くの灰坑の存在が確認され、灰坑内からの完全な犬の骨格の出土もあった。陝西省周原の遺物に準じる西周遺物が出土した。東側墓地区では西周墓の存在も確認された。この発掘期間中、清水県博物館において過去に出土した先周・西周土器の写真撮影を行った。連携研究者・西江清高と渡部展也は、2010年10月29日から同年11月8日までの12日間の日程で、甘肅省天水市清水県李崖遺跡を中心とした踏査を行った。9月に研究代表者飯島武次等が参加した李崖遺跡の発掘は継続して行われていてその発掘現場を視察した。

2011年9月の発掘は、中国側研究協力者徐天進教授・雷興山教授および、陝西省考古研究院の提案により、2008・2009年に西周甲骨が発掘された陝西省岐山県周公廟遺跡内の祝家巷北・2008QFⅢA2地点北側の台地上の遺跡に決定された。2011年9月8日から同年9月20日の間、研究代表者飯島武次、研究分担者酒井清治・寺前直人は、北京大学考古文博学院・陝西省考古研究院が行った陝

西省岐山県周公廟祝家巷北遺跡の発掘調査に参加した。この発掘期間に北郭村発掘工作站において過去に周公廟遺跡から出土した多くの青銅器・土器に対しての実測・写真撮影など、室内作業を行うことが出来た。連携研究者西江清高・渡部展也は、2011年10月29日から11月6日までの9日間、陝西省から甘肅省の渭河流域の先周・西周遺跡の地理的立地条件の調査を行った。北京大学考古文博学院が行っている周公廟遺跡祝家巷北地点の発掘現場を視察した。この発掘は、9月に研究代表者飯島武次、研究分担者酒井清治・寺前直人が参加した発掘の継続である。その後、北京大学考古文博学院趙化成教授、甘肅省文物考古研究所王輝所長らが行っていた甘肅省張家川馬家塋遺跡の戦国墓地の発掘および清水県李崖遺跡等の発掘現場を視察した。研究代表者飯島武次は、研究協者角道亮介・長尾宗史等と2011年3月11日から同年3月20日までの10日間、中国社会科学院考古研究所の協力を得て陝西省長武県の碾子坡遺跡および西安市長安区の豊京遺跡・鎬京遺跡の踏査を行った。豊西工作站にて西周瓦・高領乳状袋足分襠鬲などの写真を撮影を行った。鎬京遺跡では、昆明池の東側で漢代遺物の堆積層を調査し、漢代瓦の散布を確認することが出来た。

2012年度は、9月8日から同年9月20日の間、研究代表者飯島武次、研究分担者寺前直人が、北京大学考古文博学院・甘肅省文物考古研究所が行った甘肅省甘谷県盤安鎮の毛家坪遺跡の発掘に参加した。毛家坪遺跡は渭河の南岸に位置する西周前期から戦国時代に至る包含層・周墓・秦墓の複合遺跡である。毛家坪遺跡の発掘は、包含層(A地点・C地点)と墓地(B地点)の二箇所で行なわれた。A地点では、5×5mのグリッド6箇所を発掘し、西周後期の複数灰坑が発見され、西周中期・後期の土器が出土した。B地点M5・6・8号墓では木棺内の屈葬人骨を発掘した。その結果、渭河上流域の先周文化土器の認識を深めると同時に、西周時期における先秦文化包含層の存在を確認した。

## (2) 周城の歴史地理的研究と先周土器研究の成果

2010・2011・2012年度にわたる3ヶ年の渭河流域における先周・西周遺跡群に対する調査・踏査と発掘参加が終わった。この3ヶ年の調査・研究の結果、周公廟遺跡 A2 地点(QFⅢA2)出土の西周甲骨文の内容などによって、周公廟遺跡が周公旦の采邑である可能性がほぼ確定的なものとなった。従って周公廟の北東の尾根に分布する陵坡の大墓群は、周公旦一族の墓地であると言い切ってもよくなった。周公廟遺跡が周公旦の采邑であったことを認めるのなら、その地は周公旦が

文王から譲り受けた土地で、古公亶父の周城の位置となってくる。古公亶父～文王時代の周城の位置もかなり明確になったと言って好いであろう。

さらに先周・西周土器の研究を積極的に進めることが出来た。渭河中流域においては、先周時代つまり、二里岡上層文化・殷墟文化併存期における土器の型式には、鄭家坡型式・劉家型式・殷形が顕著に認められる。鄭家坡型式の土器は渭河中流域の東に分布する傾向があり、劉家型式の土器は渭河中流域の西に分布する傾向がある。鄭家坡型式の土器は、壹家堡遺跡の第1期頃東方の殷形の土器の影響を受けていたが、やがて変化し周形土器、特に連襠鬲の先周文化を形成していったと推定され、この時期は壹家堡遺跡の第2期(殷墟文化第2期併存)にあたる。鄭家坡型式の土器、つまり連襠鬲を主体とする先周文化の土器は、古典文献資料から考えて、姫姓の遺物と考えるのが妥当である。また、この地には先周文化時期に、高領乳状袋足分襠鬲を主体とする劉家型式の土器が存在するが、壹家堡遺跡の第3期(殷墟文化第3期併存)にはこの高領乳状袋足分襠鬲が見られ、これは周文化における姜姓の存在を示す遺物である。壹家堡遺跡の第4期(殷墟文化第4期併存)に入ると、殷形土器や高領乳状袋足分襠鬲が概ね姿を消し、西周文化の土器に直接連なる土器型式が成立したと見ることが出来る。鄭家坡型式の土器の流れを受け継いでいる一群の西周土器が、周原遺跡や豊京遺跡から出土している。このことによっても鄭家坡型式の土器が西周土器の主流となったことが判明した。西周文化の成立とその担い手は、鄭家坡型式と劉家型式の土器を持つ集団(姫姓集団と姜姓集団)で、特にその中心には鄭家坡型式の集団があったと考えた。

また、別の研究成果としては、渭河の上流域である甘肅省東部にも先周・西周土器を出土する遺跡が存在することを知った。

## (3) 出版等

2012年度末に、3年間の研究成果報告として『中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査』(駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻、2013)および『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』(同成社、2013)を刊行した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

① 飯島武次、「渭河流域の先周文化土器と青銅器からみた西周の成立」(『中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査』(駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻、2013、1

～40 頁、査読無)

②角道亮介、「青銅器窖藏からみた周原遺跡の性格」(『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』同成社、2013、83～113 頁、査読無)

③西江清高、「関中平原東部における遺跡分布と地理環境」(『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』同成社、2013、115～126 頁、査読無)

渡部展也、「GPS および衛星画像を用いた関中平原の遺跡立地環境の分析」(『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』同成社、2013、127～132 頁、査読無)

⑤飯島武次、共同執筆「伝河北省藺城出土の刻印瓦」(『駒澤大学文学部紀要』第七十号 2012、87～116 頁、査読無)

⑥飯島武次、「二里頭文化と商文化的陶炊器——鼎・鬲・甗・甗」(『考古学研究』(八)「鄒衡先生逝世五周年記念文集」、北京大学考古文博学院・北京大学中国考古学研究中心、2012、159～178 頁、査読有)

⑦角道亮介、「西周青銅器銘文のひろがり」(『中国考古学』第 12 巻、2012、35～59 頁、査読有)

⑧飯島武次、「中国渭河流域における西周遺跡の調査・研究」(『駒澤大学文学部紀要』第六十九号、2011、1～21 頁、査読無)

⑨西江清高、「歴史的地域としての関中平原「周原地区」——考古学 GPS の初歩的試み」(『南山大学人類学博物館所蔵考古資料の研究』2011、147～162 頁、査読無)

⑩鈴木敦、「先秦文字の符号化に関する諸要件」(『人文コミュニケーション学科論集』第 9 号、2010、75～84 頁、査読無)

[学会発表] (計 10 件)

①飯島武次、「黄河中流域における夏文化の銅系遺物」『アジアの青銅器』日本考古学協会公開講演、明治大学駿河台キャンパス、2013. 1. 27。

②西江清高、「四川古代史研究新視点」台湾東海大学文学院史学系講演会、台湾台南市、2012. 12. 27。

③西江清高、「中国早期王朝形成段階之考古学研究」台湾国立台南芸術大学史学系講演会、台湾台南市、2012. 12. 24。

④岸本泰緒子、「出現期銅鏡の再検討」日本中国考古学会大会、九州国立博物館、福岡県太宰府市、2012. 12. 15。

⑤岸本泰緒子、「陝北及甘肅東部秦漢時期的銅鏡生産」東亜古代青銅冶鑄国際フォーラム、安陽師範大学、中国安陽市、2012. 9. 1。

⑥角道亮介、「The Production and Significance of Ritual Bronzes in Shang and West Zhou Periods」The 5th World Conference of the Society of East Asian Archaeology、西南大学、福岡県福岡市、2012. 6. 9。

⑦鈴木敦、「甲骨文データヘースのデジタル

化諸要件と作業プロセスの検討」東洋学へのコンピュータ利用第 24 回セミナー、京都大学人文科学研究所、2012. 3. 15。

⑧飯島武次、「中国における考古学研究調査と考古学発掘事情」文化遺産国際協力コンソーシアム・東アジア・中央アジア分科会、東京国立文化財研究所にて講演、2011. 02. 21。

⑨飯島武次、「中国周公廟(鳳凰山)遺址調査と研究」日本考古学協会第 76 回総会、北京大学徐天進教授との共同発表、国士舘大学、2010. 05. 23。

⑩飯島武次、「北京大学考古文博学院における在外研究」日本中国考古学会関東部会例会、駒澤大学、2010. 05. 08。

[図書] (計 2 件)

①飯島武次、『中国渭河流域の西周遺跡Ⅱ』(同成社、2013、230 頁)

②飯島武次、『中国夏王朝考古学研究』(同成社、2012、507 頁)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

飯島 武次 (IIJIMA TAKETSUGU)  
駒澤大学・文学部・教授  
研究者番号：90106641

### (2) 研究分担者

酒井 清治 (SAKAI KIYOJI)  
駒澤大学・文学部・教授  
研究者番号：80296821  
石井 仁 (ISI HITOSI)  
駒澤大学・文学部・准教授  
研究者番号：90201912  
寺前 直人 (TERAMAE NAOTO)  
駒澤大学・文学部・講師  
研究者番号：50372602

### (3) 連携研究者

設楽 博己 (SITARA HIROMI)  
東京大学大学院・人文社会系・教授  
研究者番号：70206093  
西江 清高 (NISIE KIYOTAKA)  
南山大学・人文学部・教授  
研究者番号：10319288  
鈴木 敦 (SUZUKI ATUSI)  
茨城大学・人文学部・教授  
研究者番号：00272104  
渡部 展也 (WATANABE NOBUYA)  
中部大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10365497

### (4) 研究協力者

徐 天進 (XU TIANJIN)  
北京大学・考古文博学院・教授  
趙 化成 (ZHAO HUACHENG)

北京大学·考古文博学院·教授  
劉 緒 (LIU XU)  
北京大学·考古文博学院·教授  
雷 興山 (LEI XINGSHAN)  
北京大学·考古文博学院·教授  
焦 南峰 (JIAO NANFENG)  
陝西省考古研究院前院長  
王 占奎 (WANG ZHANKUI)  
陝西省考古研究院前副院長  
王 輝 (WANG HUI)  
甘肅省文物考古研究所長  
角道亮介 (KAKUDOU RYOUSUKE)  
日本學術振興會特別研究員 P D  
岸本泰緒子 (KISIMOTO TAOKO)  
駒澤大學大学院博士後期課程